

2023年9月10日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ14「人となられる神」

詩編132：10～12、ローマ8：1～4

問35「主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ」とは、どういう意味ですか。

答 永遠の神の御子、すなわち、まことの永遠の神でありまたあり続けるお方が、聖霊の働きによって、おとめマリヤの肉と血から、まことの人間性をお取りになった、ということです。それは、御自身もまたダビデのまことの子孫となり、罪を別にしてはすべての点で兄弟たちと同じようになるためでした。

ここでは、まことの神さまがまことの人となられる「受肉」の教理を扱うことになります。神さまが人となられるという最も大なる秘義がここにあります。ヨハネ福音書は「言は肉となってわたしたちの間に宿られた」（1：14）と言い表します。神さまの言葉が言葉を超えて、具体的な姿、出来事となって、わたしたちのところに来られました。これは驚くべきことです。人が神になるという宗教は世の中にはたくさんあります。それこそ仏教も人が死んだら仏になると言います。しかし聖書の信仰はまったく逆の方向性を持っています。わたしたちが高みに上り詰めて行くのではない。神さまの方が来られるのです。それはよく考えてみればわかることでしょう。この信仰問答でも、わたしたちは自分自身で罪を償うことができるかと問うて、「決してできません。それどころか、わたしたちは日ごとにその負債を増し加えています」（問13）と答えます。自ら罪人であるわたしたちは何もできません。神さまに救っていただけないのです。だからこそ神さまが人となられる受肉という出来事が起こりました。

信仰問答はその理由を次のように説明します。「それは、御自身もまたダビデのまことの子孫となり、罪を別にしてはすべての点で兄弟たちと同じようになるためでした」この部分の根拠となる聖書はヘブライ人への手紙です。「それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人たちを助けることができになるのです」（2：17～18）「同じようになる」というのは、神さま御自身が試練を受けて苦しまれることを意味しています。そうでなければ、わたしたちの救いは成り立たないのです。

キリスト教の歴史においては、そのように神さまが痛んだり、苦しんだりするのはおかしい。だからそれは本当に人間になったのではない。人間は仮の姿だ、人間を装ったという考え方が起こりました。しかしそれでは救いになりません。救助隊は遠くで眺めているだけでは人を助けることはできません。火の中に、倒壊しそうな建物の中にも飛び込んでいくのです。神さまはわたしたちを罪と死の支配から救い出すために、自らこの罪と死の支配の中に捕らわれていたわたしたちと同じところに降り立ってくださいました。

マタイ福音書冒頭の系図を見てください。アブラハムから始まって、ダビデ、そしてイエスさまに至るまで長々と名前が続きます。この系図はまさにこの罪の人類の歴史にまことの神さまが降り立ってくださったことを示しています。ある人は「薄汚れた罪人の家系図」と呼んでいます（吉田隆著『ただ一つの慰め』84頁）。信仰問答では「ダビデのまことの子孫となり」とあります。このダビデについて、この系図では「ダビデはウリヤの妻によってソロモンをもうけ」（1：6）と記されています。ダビデは部下ウリヤの妻バテシェバを自分のものとするため

にウリヤを戦場の最前線に行かせ戦死させました。そしてその妻を奪ったのです。自分の欲求を満たすために姦淫の罪、殺人の罪を犯します。もちろんそれだけではありません。この系図には偶像礼拝など様々な人間の罪の現実が見えてきます。どの人も叩けば埃が出てくる。わたしたちと同じです。そしてその行く末が「バビロンへ移住させられた後」(1:12)という言葉に込められています。イスラエルは強国バビロニアに支配され、国は奪われ、神殿は焼かれて、何もかも失うどん底を味わいます。預言者たちは口々にそれは神さまに背いた結果だと指摘しました。まさに薄汚れた罪人の家系図です。しかしその歴史の中にまことの神さまが降り立ってくださいました。それは、その罪にまみれた家系図を丸ごと神さまの祝福の家系図に作り変えてくださるためです。

カルヴァンは『ジュネーヴ教会信仰問答』の中で次のように述べています。イエスさまが「我々に固有な肉を着ることは必要であったのですか」と問うて、「はい。人間が神に反抗して犯した不従順は、人間性の中で償われなければならなかったからであります。そしてまた、そうしなければ彼は、我々をその父なる神に結ぶべき我々の仲保者とはなれなかったのであります」と。罪の問題は、わたしたちの責任で解決しなければならない問題です。だからこそ、イエスさまは本当の人間となられて、この罪の責任をすべて背負ってこれを償われました。そのようにしてわたしたちを神さまに結びつけてくださいました。そのことが問36に表されます。

問36 キリストの聖なる受胎と誕生によって、あなたはどのような益を受けますか。

答 この方がわたしたちの仲保者であられ、御自身の無罪性と完全なきよさによって、罪のうちにはらまれたわたしのその罪を神の御顔の前で覆ってください、ということです。仲保者であるイエスさまは、その完全なきよさによって、わたしの罪を父なる神さまの御前に覆われます。わたしたちはその罪ゆえに、そのままでは神さまのまなざしに耐えられません。けれどもイエスさまはわたしたちの側に立って、御前にとりなしてください。そのきよさによって、罪を覆ってください。「愛は多くの罪を覆う」(Iペトロ4:8)とあります。愛で覆ってください。これは大きな慰めではないでしょうか。

神さまの救いは至れり尽くせりです。でもだからこそわたしたちは信じてこのお方についていくのです。人間関係でも楽をして築けるものではありません。遠くから眺めていけば自然に出来上がるものではない。自分の足で行ってみて、汗を流して、時には衝突したり、恥をかいて、苦勞して築いていくものでしょう。神さまはわたしたちとの関係を回復するために、ご自身がわたしたちの罪の世に来られ、汗どころか血を流して、命を捧げて、その罪を贖ってくださいました。わたしたちの信仰も礼拝も祈りもすべてはこの恵みから起こされます。

天の父よ。永遠の神さまがこの罪深い世に、わたしたちと同じ人となられて、その罪の歴史を担われる恵みを感謝します。そのきよい愛を持って、御前にとりなし、罪を覆ってくださいからこそ、わたしたちは神さまとの結びつきを与えられています。この恵みに応え、それにふさわしい歩みが少しでもできますように強めてください。主の御名によって祈ります。アーメン。